

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7番7号		
自己評価作成日	令和5年8月22日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむではイベント、季節の行事など大切にしています。施設の1階には保育園があり、交流をしたり、避難訓練などの行事も一緒にしています。コロナが5類に変わってからは気をつけながら面会を再開し短い時間ですが少しずつ面会される方も多くなってきています。マスク着用、飲食禁止で対応し、交流する際は園児の遊ぶところを見に行ったりして笑顔一杯の施設です

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあゆむ」の経営母体の利楽心(株)は、池田市内で高齢者及び障害者の在宅・施設サービス、保育園運営、福祉用具洗浄消毒事業等を幅広く運営している。当事業所は、これらの事業所の一つで、平成22年4月に設立された。当事業所の特色は、これまでの生活パターンの維持に努め、日々出来ることを見定めその実行に留意されている。例えば食事では調理担当の職員が別に居て、利用者それぞれの好みに合わせた調理を行っている。介護面ではパッド交換の間隔を短くする事によりリハビリパンツを布パンツの使用可能にしている。当事業所は、建物の2階にあり、1階には系列施設の保育園があり平素から避難訓練等共に実施している。良く聞こえてくる幼児の歌声笑い声は利用者の元気の源になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人が笑顔で1つの輪になるようにということ掲げ利用者様とスタッフが笑顔で生活していただくようにしています 法人の理念として『しあわせになること しあわせであること』社是として『心で心を支える介護』を社員が大事に誇りにしている	法人の理念とは別に、事業所の目標として「笑顔で1日を過ごしてもらう」を掲げている。笑顔の素晴らしい絵文字を書き額に入れて管理者の提案で、玄関ホール、廊下等に飾っている。職員全員が笑顔で過ごすことによつて場が和み、自然適切な介護が成り立つという発想に基づいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの関係で地域との交流が前回難しかったですが面会や地域の方とは近隣のイベントや声を掛けていただいたりしております	地域の自治会に加入しコロナ禍以前は、地域との交流を活発に行っていた。コロナ禍で閉ざされていた地域との交流が、徐々に復活している。ふれあいサロンが始まり、イベントが行われている。子ども神輿があり、利用者が見学して楽しんでいた。事業所1階の保育園児との、楽しい交流も始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が地域密着の事業所を複数持っている為各々特徴を活かし地域に貢献しているスタッフがキャラバンメイトとなり地域での認知症サポーター養成講座を行っている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状開催はせず報告のみになっている。メンバーの変更もあり呉服神社の神主様に協力していただきメンバーの調整を行っている	利用者及び家族、すぐ隣にある神社宮司、民生委員、市役所職員、事業所職員等のメンバーで書面開催で運営推進会議を行い、電話で要望提案等を聞き出している。利用者家族等からは、利用者の食事の好みを良く聞き出し提供して欲しいの要望が出ている。次回は対面で行うことにしているが、メンバーは宮司と相談し調整中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方や地域包括の方と連携をとり分らない事があれば相談をしています。メールでやり取りもしています	市役所の福祉部地域支援課や地域包括支援センターの職員とは、折に触れ連絡をしながらケアサービスに関する取り組みについての相談や、施設入居希望者情報の提供を得るなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な場合は事前に家族様に説明していますが今のところ該当する利用者はいない。2週間に1回カンファレンスの実施、管理者会議の時に身体拘束委員会を実施。2階入口は家族様の希望で施錠しています	身体拘束適正化のための指針を作成し、月々に法人で行う委員会とともに研修を行っている。委員会では議事録を作成し、職員全員に会議内容を確認、周知徹底を図っている。身体拘束をしないケアの実践研修では、スピーチロックや身体拘束等適正化のために取り組むべき研修を行い、理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を行っています。各事業所は社内研修、会議や朝の朝礼時に話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての理解はまだまだ出来ていない。本人様が不安に思っている事は家族様と話をしたりその都度対応しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ここ数回の契約された方は契約に時間がかかるため必要な分だけと省略を求めてくる方が多いです。質問や不明なところはその場でお答えして、細かく内容は説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状況の説明を行っています。質問や要望もあわせて聞き取りしています。2階の意見箱には基本投函されることがないためこちらから家族様の面会時、メール、LINE、電話、手紙などで要望や意見を聞いています	利用者には都度、平素の会話の中から、家族等には施設への来訪時に、意見要望を聞き出している。家族の要望は食事に関する要望が多く、「好きなものを取り入れて欲しい」等、個々に野菜の種類など細かな注文がある。調理・買い出し専門の職員がいて、利用者個々の要望に対応するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフとコミュニケーションを積極的に行っています。1対1で話をし、悩み、相談、介護業務、介護技術など伝えるようになっています。職員から出た意見は法人内の管理者会議で検討している	職員会議は毎月月末に開催し、職員と出来るだけ多くの意見を聞き出すようになっている。その他1対1で話し合う機会も作り悩み事なども聞くようになっている。職員からは、見守りやパッド交換の工夫等対応によってリハビリパンツから布パンツに替える提案などが出され、日々の業務に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業をなくす取り組み、働きやすい環境づくりを目指しお互い積極的に声を掛け合い仕事に取り組んでいます		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修を受ける事が少ないのが現状です。社内研修と合わせてこれから社外研修を多く取り入れ対応していきたいと思えます。新人スタッフの指導は時間をかけ対応しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの会を実施していますがなかなか再開が出来ておらず来年をめどに再開する予定です。意見交換や現状書面での空席状況の報告、その他何か意見がある場合は電話やFAXなどで報告しています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとったり、時間をかけ対応しています。入居前の段階でお家へ訪問させていただき情報を取ったり、本人様に直接コミュニケーションを取らせて頂いたり、家族様にお話を聞かせていただいております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで家族様の要望や悩み事などお聞きしスタッフ間で共有し家族様の要望に応えられるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって何が必要かを見極めスタッフ、家族様、利用者様も入り話し合う機会を設けています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境で家族としてお互いが支え合う関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様との関係を大切にしています。外出、外食なども声を掛けさせていただいたり面会なども緩和し一緒に過ごしていただける時間を作っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人とは面会時に会うことが多いです。なじみの場所は皆さま池田に関して詳しいので今まで買い物に行っていた場所などに行ったり、散歩に出かけたりしています	普段の散歩で、馴染みのスーパーやコンビニエンスストアには化粧品、小間物等買い物に出掛けている。また、道で出会った知人と挨拶も交わすなどして関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で協力し合い家事を一緒にしてくださったり支えあって生活しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあった際は必要時応じて相談や情報を提供している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様や利用者様からの聞き取りスタッフの気づきなど情報を集めています 本人様の思いや意向の把握に努めています	管理者及びケアマネジャーは、入居前に利用者の自宅を訪問、生活環境をよく観察し、利用者の生活歴、事業所への暮らし方の希望要望等もよく聞き出し、ケアプランに役立て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に聞き取りを行って情報を集めスタッフ間で共有するようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度スタッフで情報を共有しカンファレンスを行い状態の把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で利用者様の状態とケアのあり方について介護計画に即して行われているかスタッフ間で話し合う。モニタリングは毎月行いプランの更新、見直し時はご家族、かかりつけ医、看護師なども参加して意見を出し合う	ケアプランの更新は最初は3ヶ月で見直し、それ以後は、短期を6ヶ月、長期を12ヶ月で見直しを行っている。利用者の状態のモニタリングチェックは、支援経過を参考にしながら毎月行っている。何か変化があった場合は、毎月の会議で意見を出し合い、介護計画の見直しをし、家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の内容を大幅に変更しています。表面はケアプランに記録できるようにしており、裏面には特記事項や医療情報、面会皮膚の観察などを記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所だけで対応するのではなくご家族様にも協力いただきその時々にも合わせた柔軟なサービスを行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出などを増やし買い物や散歩、車でドライブに行ったり1人1人に合わせて楽しみを作るようにしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は24時間対応可能な在宅医療の医師と連携をとっています。往診にはほかに歯科、皮膚科、精神科、リハビリなど適切な医療を支援しています	入居時に今までの医師を継続することが可能と説明し、過去にはその例もあったが、現在は全員が24時間対応の協力医を選んで月2回の訪問診療を受けている。訪問以外の専門科は事業所職員が同行して通院している。家族へは月1回の便りのほか、変化があれば電話やメールで知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師が訪問し利用者の健康チェックを行っている。24時間体制の在宅医療の医師、訪問看護師と連携をとっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院時には病院に行きカンファレンスを行っていただいています。入院時、入院中は利用者様の情報提供、電話などで連絡を取り情報収集、連携をとっています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に『重度化対応に関する指針』を説明し同意書をもっている。終末期と主治医がみない際には積極的な延命治療を行わないのを前提にご家族様、医師、看護師、訪問看護、ケアマネジャー、管理者でカンファレンスを行い出来る限りのケアを提供する	入居時に重度化と看取りの指針を説明して同意をとり、実際に重度化した場合は医師の指示により、ターミナルの準備に入る。家族や関係者とカンファレンスを行い希望があれば、看取り介護計画書を作成し実施する。看取り例は多数あり、昨年度は1名、現在は2名が経過中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応はその都度スタッフでカンファレンスやミーティングを開き必要な対応など伝えていきます。訓練や全員が実践までは対応できていないが報告を残してみんなに伝えていきます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などで地域の方や市の職員の方と話をしています。保育園と合同訓練をしています。避難訓練、通報訓練、消火訓練を消防署の方が立ち入りのもと実施しています。今後は夜間想定避難訓練も行う予定	今年度は6月に建物全体(保育園とグループホーム)で消火、避難、通報などの訓練を消防署の立会いの下、利用者も参加して実施した。隣の神社が避難場所になっており、備蓄など全面的に協力してくれ先日夜間、誤操作で警報がなったときも駆け付けてくれたので心強い。	2階に居室があり、階段から避難するのは困難が予想されるが、夜間想定はここ何年もしていない。本年度2回目の訓練時に実施することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言う事を基本として不適切な言動があった場合は職員同士注意しながら対応しています。慣れてくると言葉づかいも馴れ馴れしくなる為定期的にスタッフ指導しています	毎月の身体拘束適正化委員会で言葉遣い、スピーチロックについて話し合っている。家庭的、フレンドリーな関係づくりを重視しているので、堅苦しくなくその場に適した言葉遣いを心がけている。重要書類の管理は適切に行っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症があつて自己決定がすることが困難な利用者様はスタッフが表情をくみ取り対応させて頂いております。スタッフからも積極的に声を掛けさせて頂いております。食事場所、入浴時の衣類、部屋に戻りたいタイミングなど自分で選択し決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人1人のペースを大切にし、その人らしい暮らしを提供しています。職員の都合や業務優先にならないようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や帽子、靴など実際利用者様をお店と一緒に行き選んで頂いております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングでその日のメニューをホワイトボードに記入しています。食事を皆様楽しみにされており、自身でメモにメニューを書き出しされたり、献立を決めたり、調理や片付け、買い物なども一緒に行って頂いております。利用者様の能力に合わせて協力して頂いております	会社の方針として手作りの食事を大切にしている。献立、調理、買い物に専任の職員がいるので介護職員はケアに専念できる環境がある。毎日の食事でも利用者の好みを取り入れているが、特に誕生日などはその人の希望を聞いておすし、てんぷら、焼肉などの特別なごちそうを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は記録し管理しています。水分や食事量が減った時は医師に報告しています。栄養剤や食事形態や味付けなどの対応が難しい時はゼリー食やムース食を試してみたり利用者様が食事摂取できるように支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。訪問歯科の利用や利用者様の能力に応じて仕上げ磨きや見守り、義歯の洗浄を行っております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛け、排泄表をつけトイレ誘導や排泄パターンを把握できるようにしています。尿量に応じたパットを選んだり必要な利用者にはポータブルトイレを設置するなど個々に合った支援を行っている	2か所のトイレがあり、1か所は建物構造上から扉ではなくカーテンになっている。カーテンには鈴がついていて、自立に近い人でも出入りが確認できるように工夫している。看取り期の2人は巻きオムツでベット上で交換しているが、体調を見て排便時だけでもトイレできるように二人介助で努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事を工夫をしています。事業所内で出来る運動をしています。便が出にくい時は頓服薬を服用したり、訪問看護に相談したりしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴対応しています。利用者の体調などに応じて入浴日を変更したり、『今は入りたくない』というその時の気分に合わせて対応しています	少し大きめの循環式の家庭用浴槽である。一日1回は湯を捨てて洗浄し清潔を保っている。看取り対応中の二人は安全重視で家族の了解の下シャワー浴にしている。自分好みの入浴剤、洗顔料、シャンプーなどを選んで購入し、それぞれが入浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に応じて対応しています。体調管理も考えて休んで頂いたり、声を掛けさせていただいております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が処方された薬を配達し薬ボックスに収める。薬の説明はその都度説明しております。スタッフ皆が見れるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングでカラオケやトランプをしています。1階に保育園もあるのでイベントに参加したり遊んでいる姿を見たりして楽しんで頂いております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物と一緒にいたり、好きな化粧品や衣類などを一緒に選んでもらったりしています。スタッフは時間のある限り散歩にお誘いし、気分転換をはかっている	コロナ禍の時も感染に気を付けながら、近所の散歩は継続していた。現在は車いすの人も含めて、最低週に1回以上外に出ている(多い人は5~6回)森が深い、神社が隣にあるので散歩には好立地である。会社が車を出して、合同で少し遠くのポタニカルフェスティバルに行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は利用者自身ではしておりません。家族様には必要な物は伝えており施設立替にて購入しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を使用したり携帯を持っておられる方は携帯を使用し家族様とのやり取りをしています。手紙を出したい利用者様がおられるので書いていただき家族の希望で内容を確認のもと出させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者同士のトラブルで混乱しないように声を掛けさせていただいております。室温や光などその都度利用者様に声を掛け対応しております	事業所は2階で元幼稚園で、階段は広く踏み込みが浅いので、上がり下りは脚力強化に役立っている。階下は保育園で、下りて子供の声を聞いたり見たりするだけで元気がでる環境である。リビングは日当たりがよく、明るい昼間はカーテンが必要である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、利用者様がテレビを観やすいところに移動していただいたり席を移動し一緒に利用者様同士が過ごしたりしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様や家族様が持ってこられた家具や写真などを置いていただき今まで住まわれていた家と同じような環境作りをしています	ベッド、照明、空調、クローゼット、防災カーテン、寝具が標準的な備品であるが、幼稚園の改造なので、部屋の広さや形、備品も少しづつ違っている。古い写真がたくさん貼られていたり、CD、DVDとカセットデッキが置かれ、好きな音楽を楽しんでいると思われる部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段には昇降機を設置する等利用者様の能力に応じて自立して生活できるように支援しそれぞれに合わせた対応をし安全な環境づくりをしています		